

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	873900559		
法人名	社会福祉法人 聖麗会		
事業所名	グループホーム 玉里の里		
所在地	小美玉市高崎 1 8 2 4 - 5 0 0 (電 話) 0299-27-0002		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町 1 9 1 8 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年9月7日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】 (平成19年8月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	21 人, 非常勤 人, 常勤換算 6.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2 階建ての	~ 1・2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,100 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

### (4) 利用者の概要 ( 8 月 2 1 日現在 )

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護 1	5	要介護 2	7		
要介護 3	5	要介護 4	7		
要介護 5	3	要支援 2			
年齢	平均 77.9 歳	最低	58 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	つくば病院 ・ パレスメディケア病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は、利用者が心豊かにその人らしく暮らし続けることができるよう、理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。  
また、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、散歩や買い物等の外気に触れる機会や希望に沿った入浴支援など、利用者主体の柔軟な支援を行っている。  
設置法人の運営する医療機関による医療体制の充実や管理栄養士によるバランスのとれた献立など、支援体制が充実している。  
職員のチームワークも良く、地域住民とのふれあいを大切に、入居者・家族との信頼関係を構築しており、安らぎのある暮らしを支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果、課題となった理念の共有や実現に向けた取り組み、掲示方法、介護計画作成及び見直しに至る体制づくりなど、職員会議で話し合い改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は外部評価の意義を理解するとともに、自己評価は全職員で意見を出し合い、管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表・市役所職員・民生委員等、運営推進会議の委員を選出しているが、開催するには至っていないので、運営推進会議の開催に向け、日程調整することが望まれる。 運営推進会議では、ホームの実情や外部評価の報告を行うとともに、メンバーからの意見・ホームの課題等を討議し、サービスの向上に反映する取り組みを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの相談窓口や担当者を置き、重要事項説明書に外部機関を明示するとともに、玄関に意見箱を設置している。 今後は地域密着型サービスを踏まえ、苦情相談機関に第三者委員や市の介護保険窓口を明示することを提案する。 家族からの意見を生活アセスメントシートに記録し、ケース会議で話し合い、運営に反映している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運動会や空き缶拾いなど地域活動へ参加している。 ホームで行事を行うときは、地域の方々に参加を呼びかけるとともに、地域のボランティアを受け入れ積極的に交流している。
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の一員として、その人らしく暮らし続けられるよう、地域に目を向けた理念を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケース会議や日々の関わりの中で話し合い、人権の尊重や個別のケアを実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会や空き缶拾いなど地域活動へ参加している。 ホームで行事を行うときは、地域の方々に参加を呼びかけるとともに、地域のボランティアを受け入れ積極的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価の意義を理解するとともに、自己評価は全職員で意見を出し合い、管理者がまとめている。 外部評価の結果、課題となったことの改善に取り組むなど、サービスの質の向上に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・市役所職員・民生委員等、運営推進会議の委員を選出しているが、開催するには至っていない。	○	運営推進会議の開催に向け、日程調整することが望まれる。 運営推進会議では、ホームの実情や外部評価の報告を行うとともに、メンバーからの意見・ホームの課題等を討議し、サービスの向上に反映する取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が訪問した時に、ホームの実情等を伝えるなど、情報交換等を行う機会を作っている。	○	保健所・教育委員会等にも積極的に働きかけ、職員の研修やケアの向上に活かす取り組みを提案する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には面会時や年4回発行の広報誌を利用して暮らしぶりを伝えるほか、電話で連絡している。 金銭管理の状況を金銭出納帳のコピーや領収書を毎月送付、または、来訪時に家族に渡している。	○	利用者の生活状況を更に家族が把握できるよう、広報誌の発行回数を増やすなど、検討することを提案する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談窓口や担当者を置き、重要事項説明書に外部機関とともに明示している。 また、玄関に意見箱を設置している。 家族からの意見を生活アセスメントシートに記録し、ケース会議で話し合い、運営に反映している。	○	地域密着型サービスを踏まえ、苦情相談機関に第三者委員や市の介護保険窓口の明示を提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員によるケアを心がけているが、やむを得ず離職する場合は送別会を開き、利用者に挨拶をしている。 また、異動等を含め家族へは広報誌にて周知するとともに新しい職員はきちんと紹介し、利用者への配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時や段階に応じた研修を受講できる体制となっている。 研修を受講した職員が、職員会議で研修の内容を報告している。	○	外部研修ばかりでなく、ホーム内で内部研修を行うなど、職員の更なるスキルアップを図る取り組みを提案する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県認知症高齢者グループホーム協議会に加入するとともに、近隣のグループホームと交流する機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には職員が自宅を訪問したり、見学时に他の利用者と一緒に過ごすなど、職員やホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理方法を教わったり、励ましてもらうなど、学び・支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中から思いや意向を把握するよう努めるとともに、家族からの情報を得ている。 利用者の主体性を尊重し、希望に添った暮らしを支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族を交えて話し合い、アセスメントに基づき作成している。 作成した介護計画を家族に確認し、サインや押印などで同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行うとともに、現状に変化が生じていないかなど、毎月一人ひとりの介護計画を話し合い、状況に応じた見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケア・通院介助・家族の宿泊支援など、本人や家族の要望に応じた柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に利用者や家族の希望を聞き、通院介助の方法や情報の伝達方法を話し合うなど、希望に応じた医療機関で医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応は、利用者や家族の意思を確認し、医療機関と連携を図り取り組んでいるが、書類やマニュアルなどの体制を整備するまでには至っていない。	○	重度化に伴う意思確認書などの書式を整備するとともに、対応マニュアルを作成するなど、終末期にむけた体制を整備することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を明確にするとともに、利用者一人ひとりに優しく・さりげなく接し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者が自分のペースで自由な生活が送れるよう心がけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・後片付けなど、利用者ができることは職員と一緒にやっている。 また、一緒に食事をしたり、支援しながら話しかけるなど、利用者の状態に応じて、食事を楽しむ支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて、毎日入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本理念を習字の得意な利用者にも書いてもらうなど、利用者の経験を活かした役割や場面作りをしている。 また、観桜や地域行事への参加等、利用者が楽しめる行事を企画している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れ、散歩・買い物・図書館・ドライブ等日常的に戸外に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に出入りの状況がわかるようセンサーを設置しており、利用者の安全面に配慮しながら、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力をへて、消火・避難訓練を実施している。 設置法人内に災害用品を備蓄するとともに、災害時対策マニュアルを作成している。	○	地域資源・地域防災対策の把握に努めるとともに、運営推進会議等を通して、地域住民の協力が得られることを働きかけることを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立となっている。 1日を通して利用者一人ひとりの栄養・水分摂取量を把握するとともに、摂取状況を記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が編んだ手作りの作品をホーム内に掲示するとともに、季節に応じた花を生けている。 利用者は、ゆったりと寛ぎ居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子・テレビや仏壇等、利用者の馴染みの物品を持ち込み、安心して過ごせる環境になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。